

令和5年度 事業報告

事業の概要

本年度の事業の概要は次の通りであります。

1、研究助成(公募)

公衆衛生の向上及び生活環境の保全を促進させる。
研究や活動を行っている個人又は団体に対し助成金を支給
今年度は下記のテーマに関連する研究を助成対象としました。

①「感染症及び外来生物」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 26件
- ・助成支給件数 9件 (100万円/件)

「カプトマウンテンウイルスNSsタンパク質の機能解析とヒト病原性の推定」

国立感染症研究所 主任研究官 小林 大介

「節足動物のタンパク質翻訳機構を基軸としたウイルスの感染特異性を規定する因子の同定」

北海道大学 助教 田村 友和

「ダニ媒介性ウイルスのマダニ中での動態解析」

北海道大学 准教授 松野 啓太

「特定外来生物セアカゴケグモのゲノムシーケンス解析」

慶應義塾大学大学院政策メディア研究科 准教授 河野 暢明

「国内に生息するマダニ種の遺伝子同定法の開発」

北海道大学大学院獣医学研究院 准教授 中尾 亮

「回帰熱群ボレリア感染時におけるヒメダニ科オルニソドロス属ダニの唾液因子解析」

国立感染症研究所 流動研究員 佐藤 梢

「ステレオ振動カメラによるサシバエの3D 複数飛翔体定位技術の開発」

広島大学 助教 島崎 航平

「農業被害をもたらす長距離移動性害虫の相変異と腸管細菌叢との相関性解析」

広島大学大学院医系科学研究科 特任准教授 野田 正文

「農業害虫ハスモンヨトウに対して有効な抗殺虫物質の探索研究」

②「生物機能の産業利用・工業化」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 15件
- ・助成支給件数 5件（100万円/件）

「植物乳酸菌がつくる細胞外多糖の実用化に資する予防医学的研究」

広島大学大学院医系科学研究科共同研究講座教授,名誉教授/広島大学

「核酸とタンパク質を共有結合で簡便に連結する技術の開発」

東京農工大学 教授 池袋 一典

「植物病害に応じたポリインチューニングによる微生物農薬の革新」

大阪公立大学 准教授 甲斐 建次

「嗅覚飛行ロボットに適した高耐久性触角ベース匂いセンサの開発」

信州大学繊維学部 准教授 照月 大悟

「大腸菌の外内膜小胞生産機構を応用したタンパク質分泌生産」

大阪公立大学 准教授 尾島 由紘

2、シンポジウム開催

- ・「感染症との絶え間なき闘い～コロナ禍を経て、パンデミックへの備え～」と題しシンポジウムを開催した。

日時 令和5年3月30日 13時より

場所 ベルサール八重洲「ルーム J」

参加人数 約150名

3、奨学金事業

公衆衛生の向上や生活環境の保全を進める人材育成のため、国内の大学院生とアセアン諸国からの留学生に対し奨学金を支給した。

- ・令和5年4月より奨学生9名に月額5万円給付実施